

上京 史蹟と文化



美を創る

表、裏、武者小路の三千家好みの茶の湯の道具を制作する「千家十職」。その中で、一閑張細工と呼ぶ、薄茶を点てる抹茶を入れる棗やお香を入れる香合、菓子を盛る食籠などの茶器を作り続けてきたのが飛来一閑家です。当代一閑さんは平成十年（一九九八）、十六代を襲名。現在まで夫の聡さんと共に伝統の家業に取り組まれてきました。「合わせて一人前」と謙遜されるお二人にお話を伺いました。

一閑張細工は漆工芸の技法の一つで、木地に和紙を張って器としたものに、漆をひと塗りして、その上に季節を表す蒔絵を描いて仕上げます。あるいは既成の木型や石膏に何度も和紙を張り重ねた後、型を抜き出して器として、同じ処理を施す手法もあるそうです。

こうして棗一つを完成させるまでに十五年以上の日数が必要だといわれます。

「四角い桜の木を十五年ほど寝かせて乾かして、五年おきくら



一閑張細工師

十六代 飛来一閑

上京区出水通油小路西入



飛来一閑さん（右）と聡さん

いに轆轤師さんが徐々に丸く削っていきます」「乾かす間に、駄目なのは割れてしまします」「薄く出来上がった状態で木地師さんから届くのですが、その後でも蓋と身のすき間が狂うことがあります」

蓋と身がびつたりと合って動かないものだけに和紙を張り、漆を塗って、絵を描く工程に六カ月ほど掛かります。飛来家では紙を張るのはほとんど聡さん、漆を塗るのは一閑さんと夫婦二人で。

「この作業まで残るのが十個に一個位ですか」「和紙は先代が

昔に買い置いてくれた美濃紙や富山産紙を使っています」「漆を一回だけ塗って、また乾かして和紙の風合いがぼやっと出るのが、うちのやり方です」

紙を張り、漆を塗って湿気を帯びるとまた形が狂つことも。それを乾かして蒔絵師さんへ。棗自体の形は宗旦そうたん宗匠そうしやうの時代から現在までほとんど一緒。凶案は松や鶴、萩や紅葉など決まったものが多く、三千家歴代の宗匠それぞれの好みも伝承してきました。



而妙齋宗匠御好 宝尽マキエ 丸食籠

飛来家の初

代一閑は中国浙江省杭州の僧でしたが、

明末清初の混乱を避けて大徳寺だいとくじの清巖せいがん宗渭そうゐ和尚を頼つ

て来日、同和尚から千宗旦を紹介され、

趣味であった

一閑張の細工

による小物の注文を受ける

ようになったといひます。

その後さまざまな変遷を経て、先代の

十五代は当代

一閑さんが高校三年生の時

に亡くなりました。

「一人っ子でしたから、

誰にも言われ

なかったけれども、いずれは家業を継ぐのかと思っていました」「先代は自分の部屋で漆を塗っていたのは覚えていますが、直接教わることはありませんでした」

一閑さんは十六代を襲名してから十七年、「これをまた先に繋いで行かねばならない責任も感じています」

「息子が一人、今は全く違つていますが、私と同じようなことを考えているのではと思います」。

「千家十職」のうち女性当主は、塗師の十二代中村宗哲、竹細工・柄杓師の十四代黒田正玄のお二人と合わせて三人となりました。十職を継承する女性お三方が揃って上京区在住というのも何かの縁でしょうか。



而妙齋宗匠御好 翔鶴棗

ぶらり 上京

その一

今出川通

の道標

長く書き続けてきた「上京の大路小路」は、ほぼ全部の道を網羅しましたので、今回から視点を変えて線から面へと広げ、「ぶらり上京」と題して地域のスポットを紹介していきたいと思えます。

第一回では、今出川通の道標を取り上げてみましょう。この道標

は五十年ほど昔、私が京都の道標の総合調査を思い立ち、京都市内の道標四百本余りを記録するきっかけとなったものです。

今出川室町の東北角に、足利幕府跡を示す石標とともに並んで立っていた道標が一時姿を消したことがあります。それが幸にも上京区役所東側の庁舎の増築に伴い、人目につかない庁舎裏の駐車場に移されていたことを見て、ほっとしたのと同時に、これから先の道標の運命を思った時、今のうちに道標の現況を記録しておかねばと思いい立ち、私の研究の原点

となったのが、この道標にほかならなかったのです。

今年の一月、上京区総合庁舎新庁舎の完成により、道標は久しぶりに姿を現しました。新庁舎の開所の日、正面に「すぐ東山」の文字を誇らし気に見て安心したような気持ちになりました。

この道標は二五センチ角（尺貫法では八寸）、高さは一四〇センチほどの細身で、石標型と分類される典型的なものです。その表示は簡素で上部に東南西の方角、その下に「右 上かも」「左 天満宮」「すぐ 東山」という方向指示と目的地名のみが彫り込まれています。道標としては最低限度の表示に止めており、流麗な文字とともに町角の点景となっていたのでしょう。

「東」の方角を示す面の前に立つと「右」つまり室町通を北へ行くこと「上賀茂」へ行き着きます。今の烏丸通の北の方は相国寺の境



道標の東面と南面



もともとあった今出川室町東北角

内で道はありません。上賀茂へ向かう道は室町通で賀茂川沿いに街道化していました。

道標を「南」から見て今出川通を「左」(西)へ進むと北野天満

宮へ向かいます。上京区内にも何社かの天満宮がありますが、これは北野天満宮のことです。今出川通は、現在銀閣寺から西大路を越え龍安寺道あたりまで延々七キロに及びますが、もとは河原町あたりから新町西入まで、その先は今小路通、須磨町通と名を変えながら、西陣の町並を抜けて北野天満宮に至ったのでした。

「すぐ東山」の「すぐ」は、短い距離や時間を示すのではなく、方角を示す「真直ぐ」の意味になり、道標ではよく使われていました。現代のような高い建物のない時代、西から見れば大文字山をはじめ東山三十六峯が一望に見られたことでしょうか。

この道標は、場所を変えたとはいえ、上京区内の数少ない道標の一つとして、上京区総合庁舎の表を飾るのにふさわしいものです。末筆ながら背面になる北面には「安政五年弥生」の紀年銘がつつましく記され、幕末の安政五年

(一八五八)に立てられたことがわかり、近くの同志社大学の位置には薩摩藩邸もあって血なまぐさい時期を知る生証人といえるかもしれませぬ。

ここから東へ八〇〇メートル、京都御所に近い今出川寺町の東北角の歩道に大きな道標があります。四〇センチ(一尺三寸)角、高さは一六八センチ、京都では最大、全国でも最大級と思われる。このどっしりと構えた道標、私の最も好きなもので、ここを通るたびに頭を撫でて無事を確認しているのです。

上部に大きく東南西北の方角指



今出川寺町の道標 (南面)

示があつて、その下の目的地名はそれぞれの面の行先を表示しています。しかも個々の地名に距離が記されている親切な道標でもありません。距離を示すのは道標の要素の一つですが、意外にそのような例は少ないのです。単一の目的地名に添えられることもありますが、これほど多くの地名に比較的正確な距離が付されているのは珍しいと思います。

四面に二十二ヶ所の目的地名が見られるのも類例は少ないのですが、この中で数多くの道標にも見られるのは「六条」「祇園」「北野」「清水」くらいで、そのほかの地名はあまり見かけません。これは寺町今出川という地点に興味があるのではないかと思えます。それは、ここが京都七口の一つ、大原口であったからです。桃山時代、豊臣秀吉が天下統一をなすとげると、京都に市街地改造を実施します。その一つに

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075)431-1366

FAX (075)431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03)5261-4566

FAX (03)3235-5677

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075)441-1968 / FAX (075)441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075)451-6050 / FAX (075)451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>



今出川寺町の道標（東面）

御土居の建設があります。暴れ川とされた鴨川の西岸と紙屋川の東岸に巨大な土堤を築き、さらに北部と南部を結んで、水害と外敵から守る防護の役目を与えたのです。そして街道と接続するところに出入口を設け京の七口と呼ばれました。ここは大原街道（若狭街道）と白川街道の起点で、水害防備のために城郭に見られるような柵形を設けたので、今も商店街の名称に残っています。

地名が見られます。京阪電鉄と叡山電鉄の出町柳駅のところから東へ延びて百万遍に至る蛇行する道が白川街道で、山中越または志賀越につながって坂本に至る街道になります。坂本越という呼び名のあることが、この道標によって証明されます。

南面には、革堂（行願寺）、六角堂（頂法寺）のような他の道標には見られない寺名があり、いかにも市街地に通じる地点であることがわかります。六条は江戸時代の道標によく見られますが、これは本願寺のことで、六条にあるところから西六条（西本願寺）、東六条（東本願寺）と昔、呼ばれていた記憶があります。さらに

祇園が祇園に誤っているのも書家の筆が走ったのでしようか。「祇園石段下」と市電の停留所表記が誤っていてペンキで塗りつぶしてあったことかと思ひ出されます。

西面には内裏という目的地

名に目をひかれます、三丁という最も近い距離が表示されていますが、今の京都御苑と異なり、公家屋敷の軒を連ねていた中に内裏も目立たなかったのでしょうか。もちろん当時の今出川通は両側に公家屋敷の築地塀が連なり、今のようないな石垣ではありませんでした。

北野、金閣寺、御室（仁和寺）の社寺から果ては愛宕山まで導いています。北面では、近くの上御霊神社、大徳寺、今宮神社から遠くの上賀茂神社、鞍馬寺までの道案内がなされています。ここには慶応四年四月の紀年銘があります。慶応四年（一八六八）は九月八日に明治と改元しますから、江戸時代最後の道標といえるかもしれません。四月といえは三月十四日に勝海舟と西郷隆盛との間で江戸開城の会谈が成立した直後に当たります。

この道標の北東南の面の下部に細かく十九人もの名前が刻まれ、屋号や名前から富裕な商人と思われ、その住所を比定できませんが出町付近の商人たちが、慶事にあたって資金を出し合い能書家の揮毫を白川の石工に彫らせたのではないかと推測できます。また西面の下部には不の記号が彫られているところから、ここまで地中に埋めたのでしよう。

この地点からずっと東、今出川通と現在の京都大学の構内を横切ってきた白川街道が重なりあう吉田山の北麓にある大きな石仏の脇の道標は二メートル余り、嘉永二年（一八四九）銘を「石工権左衛門」の名が彫られ、白川石に地元の名のある石工の作であることが知られます。したがって今出川通を中心とする道標は、白川石と白川の石工によるものと見てよいのでしよう。

大原口と北白川の道標は、京都で最も古い三条白川橋、東一条、山科御陵中内町の道標とともに京都市の登録文化財（史跡）に登録されています。（出雲路敬直）

千宗旦とキツネ

わび茶一筋の生涯貫く

千宗旦せんそうたん（一五七八―一六五八）

は、創始者千利休せんりきゅう（一五二二―一五九一）の孫にあたる千家流茶道の三代目。十歳の頃、紫野の臨濟宗大徳寺に預けられ、利休と交流があった住持の春屋宗園しゅんおくそうえん（一五二九―一六一一）のもとで得度し、禪の修行に励んだが、一六〇〇年（慶長五）頃に還俗げんぞく、二代目の父少庵ししょうあん（一五四六―一六一四）の隠居に伴い家督を受け継いだ。政治との関わりを避けて生涯仕官することはなく、利休のわび茶をさらに徹底させて、「茶と禪は一つ」という茶禅一味を説いた。まるで乞食こじき修行者のような

清貧の生活の中でわび茶一筋の生涯を貫いた人物だという意味から、「乞食宗旦」と呼ばれたという。

宗旦には四人の息子がいた。長男閑翁宗拙かんおうそうせつ（？―一六五二）は宗旦から大きな期待を掛けられたが折り合いが悪く勘当され、宗旦より早く亡くなった。二男一翁宗守いちおうそうしゅ（一六〇五―一六七六）は一時、吉岡甚右衛門よしおかじんえもんと名乗り塗師ぬりを業としたことから、茶の道に入るのが遅れた。こうした経過から、三男江岑宗左かうしんそうさ（一六一三―一六七二）



相国寺にある宗旦稲荷社

が宗旦から家督を継いで小川通寺ノ内の不蕃菴ふしんあんに納まり、四男仙叟せんそう宗室そうしつ（一六二二―一六九七）が地続きにある今日庵こんにちあんを引き継ぎ、後に宗守は官休庵かんきゅうあんを建て、それぞれが庵の亭主になって、表千家、裏千家、武者小路千家と呼ぶ三千家の祖となり、今日まで利休の血脈

とわび茶の精神とを受け継いでいる。

その宗旦に、キツネにまつわる物語が今に伝わる。

お点前披露する白キツネ

京都御苑の今出川御門から、同志社大学を左右に分ける通りを北上すると、相国寺しよこくじがある。大徳寺と同じ臨濟宗大本山の一つで、京都五山の第二に位置する名刹であ



大本山相国寺
TEL (075) 231-0301
承天閣美術館
TEL (075) 241-0423

〒602-0898
京都市上京区
相国寺門前町701
<http://www.shokoku-ji.jp>



相国寺 宗旦稲荷社のキツネ

る。総門をくぐりさらに北へ進むと、右手に大きな鐘楼があり、その東北うしろに、宗旦になりすまして人々と交流したという白キツネを祀る、「宗旦稲荷」の祠がある。この白キツネ、江戸時代初めから境内の竹藪に住みつき、わび茶をたしなみ、しばしば茶会に姿を現していたらしい。

ある時、塔頭の慈照院願神室の茶室開きで宗旦に化けた白キツネがお点前を披露中に、本物の宗旦がやってきて、

「所用で遅れて申しわけない」

「宗匠はさきほどから茶室におられるはず。あなたはどなた」

「私が宗旦、どなたが先にお出でなのか」

そつと茶席を覗き見ると、列席している茶人たちは偽物とは全く気がつかない様子で、宗旦は流儀に適った見事な作法にすっかり感じ入ってしまった。それでも宗旦と弟子の話し声や僧侶たちのいぶかしげな仕草に、正体を見破られたと気付いた白キツネは下地窓を破って逃げ出したが、その窓にはぼつかりと穴が開いて、修復され

たものの、茶室には不釣り合いな大きいものになってしまったという。

願神室は慈照院の第七世所願頭(生没年不詳)と宗旦の合作で「宗旦好みの席」とも呼ばれ、四畳半の下座床で躡口がなく、南側に障子二枚引の貴人口を設け、その横に白キツネが逃げた際に開けたといわれる窓がある。床には「宗旦狐」の軸が掛けられ、席内に布袋像を安置する持仏堂があり、その首は利休の首とすげ替えられるように出来ている。これは切腹した利休を公然と祀るのがはばかられたためになされた工夫だという。

好物のネズミ食して絶命

宗旦に化けた白キツネは、「自分分は宗旦の点前に憧れて、そのよくな点前をしてみたいと修業に励んでいた。もう二度と悪さはしない」と詫びたので、弟子も僧侶た



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408(代)
E-mail:info@wako-print.co.jp



京都人さえもが恋するホテル。



〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

ちもそれ以上、咎めることはなかった。白キツネはその後、雲水と共に僧堂で坐禪を組み、托鉢に行くなど、寺のために尽くし、門前の家で碁を打つこともあった。熱中するあまり、うっかりして尻尾を出してしまふこともあったが、人々はその正体を知りながら近所付き合いを続けたという。

そんなユーモラスで皆から愛された白キツネだったが、豆腐屋にまつわる最期は少し物悲しい。

ある年の盂蘭盆の頃。寺近く

の豆腐屋が資金難から倒産寸前に陥っていた。白キツネは蓮の葉をたくさん集めて来て、それを売って大豆を買うよう勧めた。豆腐屋はそのお陰で店を建て直すことができ、お札にキツネの好物であるネズミの天婦羅を作って白キツネに贈った。しかし白キツネは、それを食べると神通力が

失われるといって遠慮したが、大好物には逆らえず、ついに食べてしまった。

すると宗旦姿の白キツネはたちまち狐の姿に戻り、正体に気付いた近所の犬たちが激しく吼え、追いかけた。白キツネは必死に逃げ回った。竹藪に逃げ込んだが、慌てていたために野井戸に落ち、命を落としてしまった（獵師に鉄砲で撃たれた、また自ら死期を悟って別れの茶会を開いたとも伝わる）。相国寺は寺のために尽くしてく

れた白キツネの死を哀れみ、雲水たちが供養のために作ったのが「宗旦稲荷」だと言われ、今日でも毎年2月と11月には初午祭はつうまと御火焚祭ひたきが営まれ、油揚げを供えて白キツネを偲んでいる。

こうした話が由来したのは、宗旦がわび茶を追求するあまりに質素な生活をして、宗旦自身みづかが狐ではと訝あやられるような風体で

あったことに始まるようだ。宗旦狐の逸話は、茂山社中の新作狂言で演じられたり、沢田ふじ子さんの小説「宗旦狐」が創作されたりと人気が絶えない。

(福井和雄)



慈照院 願神室



願神室 内部

「おしよらいさん」

京都産業大学 日本文化研究所
 上席特別客員研究員 小嶋 一郎

祖霊信仰を大事にする日本にあつて、特に京都の人達は、ご先祖さんの魂を手厚くもてなしてい

るように思える。まもなくやってくるお盆の前後に、そのことが明らかになる。京都の人達の多くは、亡くなった方々の魂を親しみと尊敬の念をこめて「お精霊（しよらい）さん」と呼ぶ。先ず「迎え鐘」を撞くのが、お盆の初日といわれる十二日や十三日より、ほんの少し早い時期であること。またお見送りをす

お盆の千本ゑんま堂(8月14日夜の「千本六齋念仏」)



る「送り火」が他の地方ではお盆の最後の日と言われる十五日ではなく、十六日の夜であるということ。これは、早めにお迎えをして、少しゆっくりめにお見送

りをするという、亡くなった人達にとつてはこの上なく有難い「おもてなし」といえる。俗世間に例えると二泊三日程度の慌ただしい旅行よりも、約一週間程度の滞在期間のある旅行の方がはるかに落ち着くのと似ている。

また、更に丁寧なるアフター・ケアとして「地藏盆」がお盆の後、約一週間後にやってくる。あの世に帰っても、まだ慣れない環境で苦勞をしている「新盆さん」のケアをお地藏さんをお願いしているのである。特に亡くなってから三年未満の場合、まだ新しい環境に慣れきっていない「おしよらいさん」への対応をお地藏さんに頼むのである。地藏菩薩は子供の守り本尊として知られているが、ケアの対象は子供に留まらず、自分を頼ってくれるものは等しく救済してくれるレスキュー隊員と考えた。上京区でも引接寺(千本ゑんま堂)では「お精霊むかえ」が八月七日から始まり、水塔婆を流して、「迎え鐘」をお盆に先駆けて撞かせて貰え、また大報恩寺(千

香木・薰香・匂香

香 山田松香木店

Tel 02-26014
 東京都京都市上京区御前中町1-6-4
 TEL(075) 4414694
 TEL(075) 4414694
 FAX(075) 4317870



ぼたん鍋と京料理

元祖 畑かき

京・上御霊前烏丸西

☎075・四四一・〇六一〇代

本釈迦堂)では八月八日から十六日まで「六道まいり」ができる。五山の送り火は、京都盆地の北半分に半円を描くように、上京の家々からよく見届けることができ。送り火が終わると、こんな会話が上京の町かどで聞こえてきそう。夏の昼下がり・・・

「おしよらいさんがな、あの世で、安らかあに過ごして貰えるように、お地藏さんによくお参りしまひよ・・・」

「特に新盆さんはな、あの世でも新米さんやさかいに、勝手がようわからんし、困った時はお地藏さんに、よう面倒見て貰わんとあかんそうや。そやから新盆さんの出た家は、三年程は六地藏まいりをしとかはった方がええらしいよ。」

「ところで、おかあはん。あの世って?どこにあんの?」



鐘つき堂と梵鐘(南北朝時代:京都市指定文化財)

「空のずっとずっと上やったり、地の底やったり、今うちらの住んでるこの世で目に見えへん世界やったり、五つほどあるそや。今、わてらが住んでいる人間界を入れて、全部で「六道」というそや。」

「六道という六つの世界を自由に行き来できる力を持つてはるのが、お地藏さんなんやて。そやし、普段からお地藏さんにはよ

うお参りしとかな、あかんといふことやなあ。」

亡くなっても、自分たちを見守ってくれる「おしよらいさん」を懇ろにもてなす、京の盆。またお返しにお地藏さんに、おしよらいさんのあの世で後事を託す地藏盆。時空を超えて、人と人との縁、仏と人の縁を大事にする習慣はこれからも大事に守っていききたい。

しみじみと 心のかよう 贈りもの

www.toraya-group.co.jp

虎 トラヤ

Every Day 5:00~7:00pm
HAPPY HOUR
40%OFF

金曜・土曜は
4:00pmから開催!!

毎日17~19時はお酒が4割引!!ホテルバーのハッピーアワー!!
1F ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」では、
毎日17~19時はボトル、企画商品および喫茶メニューを除く、
すべてのドリンクを40%OFFでお楽しみいただけます。
この機会にホテルバーをお気軽にご利用ください。

ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」 Tel.075-223-8974 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分 **京都ロイヤルホテル & スパ**

1月17日 (土)

上京区新庁舎開庁記念

『みんなで花を植えよう』



「みんなで花を咲かそう」ボランティア活動のメンバーと、公募により参加していただいた区民の皆様が協力して、新庁舎の新しいプランターに、たくさんの花を植えました。

「みんなで花を咲かそう」ボランティア活動について

来庁者や道行く人々が季節を感じ、安らげる場をつくろうと、平成19年度から活動を開始しました。

年2回（春と秋）に一斉植替え作業を行ったり、日々の水やりなどのお世話を行い、上京区役所前に彩りを添えています。

一斉植替えは、メンバー全員が集まり、専門家に指導してもらいながら、草花の植替えなどを和気あいあいと行っています。



ゴールドクレスト、水仙、ジュリアン、パンジーなど



メンバーはさすがに手慣れた様子



子どもたちも頑張りました

参加者からは「前を通ると、自分で植えた花が咲いているのが嬉しい」「区役所により親しみを持てる」との声をいただきました。

みんなで植え方の説明を聞きます



完成！



いっせいに作業開始



6月13日には、ボランティアの皆さんによって一斉植替え作業が行われました。華やかなハイビスカスが、夏の陽射しの下、元気に咲き誇っています。

上京区新庁舎開庁記念 上京文化絵巻

第1巻：1月31日（土）
第2巻：2月14日（土）
第3巻：2月21日（土）

上京区内にお住まいの文化人の方々3名をそれぞれ講師としてお招きし、上京の文化や歴史、また、その魅力についてお話をさせていただきました。参加者からは「上京に住んでいることを誇りに思う」「またお話を聞きたい」と声が寄せられ、大変好評でした。

第1巻

『樂焼の歴史』

樂吉左衛門氏
陶芸家 樂家十五代

桃山時代から約450年にわたり、上京区で樂焼を作り続ける樂家。その当代である樂吉左衛門氏が、樂焼の発祥から、現在に至るまで、作品をスライドに写しながらお話をされました。

琳派と樂焼のつながりや、海外で展示会を行った際の観客の反応など、興味深いお話をたくさん聞くことが出来ました。



第2巻

『江戸時代の公家街』

冷泉 貴実子氏
冷泉家時雨亭文庫
常務理事

藤原俊成・定家の父子を祖とし、代々和歌を家業とする冷泉家。

「日本人」の季節の感じ方や表現は、古来から受け継がれていること。例えば「梅に鶯」と聞いて、聞いた者全員が「春」を感じるというのは、世界的に見てもまれな文化であることなど、上京のみならず、「日本」の源流の一端に触れることが出来るお話でした。



第3巻

『上京界隈の事々』

—武者小路通りを中心に—

千宗守氏
武者小路千家
第十四家元

千利休からはじまり、現代まで続く茶の湯のことや、京都の歴史と文化について、ユーモアあふれる語り口で解説されました。

世界の魅力ある都市とはどんな都市か。海外で茶道を教授されることも多いお立場から見た「京都」という「都」、その中心にある「上京」の身近な話題について、楽しくお話いただきました。



永年の信用 まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 / 京都市中京区烏丸通三条下ル

☎ 0120-00-4200 公益社 京都 検索

葬祭式場 **ブライツホール**

北ブライツホール [堀川紫明]
中央ブライツホール [五条大和大路]
南ブライツホール [堀川八条]
西ブライツホール [五条西大路]
山科ブライツホール [五条外環]
烏丸ブライツホール [烏丸高辻]
宇治ブライツホール [宇治横島]
大津ブライツホール [大津駅南]

上京茶会

春の「上京茶会」が、五月三十一日大徳寺塔頭芳春院を会場に、表千家による懸釜で開催されました。金閣・銀閣・飛雲閣と並び京の四閣と称されている「呑湖閣（どんこかく）」を間近に見ながらの本席と、枯山水の石庭「花岸庭」を眺めながら床几に座っていただく副席の二席でお茶を味わい、心安らぐひとときを過ごしていただきました。



上京区民 ふれあい文化大学

2月7日、新しく開庁したばかりの上京区総合庁舎会議室において、「知られざる上京の歳時記」をテーマに「上京区民ふれあい文化大学」が開催されました。講師である京都観光おもてなし大使の小嶋一郎氏の軽妙なお話に加えて、楽しいクイズも行われ、なごやかな雰囲気の中で、参加者は、いにしえから続く上京区の伝統行事について理解を深めることができました。



上京区憲法月間 「映画のつどい」



5月28日、同志社大学寒梅館において、詩人柴田トヨさんの半生を描いた映画「くじけないで」の上映と、同志社大学関根教授による講演「100年の人生を楽しく生きよう」が行われました。昨年引き続き、日本語字幕と音声ガイド（クローズ方式）による場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を今回も実施し、来場された方の誰もが映画を楽しんでいただける機会となりました。会場には一部・二部あわせて1000名を超える方が来場され、年齢と向き合い前向きに生きることの大切さを感じていただきました。

●表紙の写真

今号より上京区在住の写真家である水野克比古先生に表紙の写真撮影を依頼することになりました。水野先生は、1941年上京区西陣生まれ。上京中学、山城高校、同志社大学文学部卒業。1969年より京都の風景を中心とした写真撮影に取り組み、170冊を越す写真集を出版されています。

Banquet (ご宴会)
 歓送迎会、慰労会、法事...
 あらゆるニーズに対応いたします。
 お料理、4,000円から承ります。

Restaurant (レストラン)
 お気軽にお食事をお楽しみいただけます。
 ご昼食 11:30 ~ 15:00 (L.O. 14:00)
 ご夕食 17:00 ~ 21:00 (L.O. 20:30)

Rubino

京都御所蛤御門徒歩8分

ホテルルビノ 京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町3-7
 Phone: 075 (432) 6161 Facsimile: 075 (432) 6160

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
 また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

鑑定書不要!

ダイヤモンド&宝石各種、絶賛高価買取中!

宝石・貴金属の鑑定は、**FGA (英国宝石学協会)**
 認定資格者が行いますので鑑定書は不要です。

宝飾・時計

ブランドバッグ

美術品・書画・骨董

YOROZUYA 四条店

ドライブスルー質屋 加藤商店グループ

(株)よろず屋 四条店 (楽天市場にも出店中)

京都市中京区東洞院通四条上ル「大丸京都店」北隣

TEL. **075-241-7900**

◎営業時間/買取 10:00~19:30

販売 11:00~19:30

年中
無休

〈本店〉創業70年

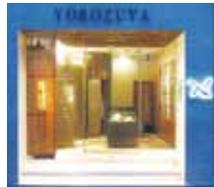
京都市上京区烏丸通今出川下ル(地下鉄今出川駅すぐ)

TEL 0120-25-0700

◎営業時間/11:00~19:00(土曜日は18:00迄)

◎定休日/日・祝 ◎駐車場10台完備

京都 よろず屋 検索 京都 加藤商店 検索



地下鉄「四条駅」-阪急「烏丸駅」20番出口すぐ



関西テレビ放送
 よーいドン!のコーナー
 「となりの人間屋さん」
 に紹介されました。

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学

http://www.doshisha.ac.jp/

お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL:(075)251-3120



創立以来八十年に
 わたって、
 和やかな家庭的な
 雰囲気にも包まれつつ
 就学前教育の
 本流をめざして、
 保育を続けて
 参りました。
 幼児たちは
 楽しい遊びを通して、
 人生に必要な生きる
 力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://www.kitano.ed.jp/



名物どうぶ
南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311

http://www.to-fu.co.jp



発展、ともに前へ… 洛和会丸太町病院

洛和会ヘルスケアシステム®

京都市中京区七本松丸太町上ル

救急対応

24時間365日

内科・外科救急

内科／呼吸器内科／
消化器内科／心臓内科／
神経内科／外科／
整形外科／形成外科／
皮膚科／泌尿器科／
耳鼻咽喉科／麻酔科／
リハビリテーション科／
内分泌糖尿病内科／救急科

耳鼻科救急

月～金 午後7時～
午後11時

救急・急患には24時間体制で対応しています。

洛和会丸太町病院へのお問い合わせは TEL 075(801)0351(代)



M
MALEBRANCHE
京都 北山

京都 北山
マルブランシュ

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL(075)722-3399・FAX(075)702-9440
9:00AM～9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM～8:30PM)
<http://www.malebranche.co.jp/>

上京区文化振興会

発足以来約60年、これからも上京区の文化振興に貢献します。

上京区文化振興会は、昭和33年に結成されて以来、様々な文化事業の開催を通じて上京区の文化の普及と啓発に努めています。昭和40年から毎年開催している上京茶会と上京薪能は、上京を代表する文化事業として区民に親しまれています。

いよいよ次号で第50号を迎える冊子「上京—史蹟と文化」は、上京区の豊かな歴史と伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じただけで、文化資源の貴重さを再発見し、関心を高めていただこうと上京区文化振興会が編集し、上京区民ふれあい事業として年2回発行しています。

本冊子の第1号から最新号までは、上京区のホームページからPDF形式で閲覧していただけますので、ぜひご一読ください。

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyoo/>)

